

かんしょ(さつまいも)登録農薬適用表

野菜類登録の剤は別ページにまとめてあります。確認して使用してください。
 いも類登録の剤は別ページにまとめてあります。確認して使用してください。

登録内容は2022年9月1日現在

用途	劇毒	FRACコード	薬剤名	使用時期	使用回数	倍率・使用量(10a当り)	100g調整時 薬量	適用病害虫	予防	治療	剤型	使用方法	成分名	備考
殺菌剤		1	トップジンM水和剤	植付前 貯蔵前～伏せ込み前	1回	200～500倍	—	黒斑病 基腐病	—	—	水和剤	20～30分間種いも又は苗基部浸漬 30分間採苗用種いも浸漬	チオファネートメチル	
		1	ベンレート水和剤	植付前 挿苗時 収穫7日前まで	1回 3回以内	500～1,000倍 種いも重量の0.4% 500～1,000倍(20～40ml/株)	—	つる割病、黒斑病 基腐病 黒斑病 つる割病	—	—	水和剤	20～30分間苗基部浸漬 30分間苗浸漬 種いも粉衣 株元灌注 散布	ベンゾル	
		1、M3	ベンレートT水和剤20	植付前	1回	20倍 200倍	—	黒斑病 黒斑病 基腐病	—	—	水和剤	1分間さし苗基部浸漬 30分間さし苗基部浸漬 30分間苗浸漬	チウラム ベンゾル	
		M1	ドイツボルドーA	—	—	500倍(100～300g)	200g	斑点病	○	×	水和剤	散布	塩基性硫酸銅	
		M1	Zボルドー	—	—	500倍(100～300g)	200g	斑点病、基腐病	○	×	水和剤	散布	塩基性硫酸銅	

用途	劇毒	IRACコード	薬剤名	使用時期	使用回数	倍率・使用量(10a当り)	100g調整時 薬量	適用病害虫	効果 発現性	残効性	剤型	使用方法	有効成分名	備考
殺虫剤		1B	ネマトリンエース粒剤	苗床植付前 植付前	1回	10～30kg 15～20kg 20～30kg	—	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	—	—	粒剤	全面土壌混和 作条土壌混和 全面土壌混和	ホスチアゼート	
		1B	ダイアジノン粒剤5	植付前 収穫30日前まで	1回 3回以内	4～6kg 4～6kg	—	ケラ、ネキリムシ類 コガネムシ類幼虫	—	—	粒剤	全面土壌混和又は作条土壌混和 作付前:全面土壌混和又は作条土壌混和、生育中:作条処理して軽く覆土	ダイアジノン	
	劇	3A	フォース粒剤	植付前	1回	9kg	—	コガネムシ類幼虫、ハリガネムシ類	—	—	粒剤	全面土壌混和または作条土壌混和	テフルトリン	
	劇	3A	アグロスリン水和剤	収穫7日前まで	5回以内	1,000～2,000倍(100～300g) 1,000倍(100～300g) 2,000倍(100～300g)	100～50g 100g 50g	ナカジロシタバ、ハスモンヨトウ イモコガ、エヒカラスメ、コナジラミ類、ネギアザミウマ、ヨトウムシ アブラムシ類	速	長	水和剤	散布	シベルメトリン	
		3A	トレボン乳剤	収穫7日前まで	3回以内	1,000倍(100～300g)	100ml	ハスモンヨトウ、ナカジロシタバ、アブラムシ類	速	中	乳剤	散布	エトフェンロックス	
		4A	アクタラ粒剤5	植付前 育苗期	1回	6～9kg 6～9kg 6kg	—	コガネムシ類幼虫 アブラムシ類	—	—	粒剤	全面土壌混和 作条混和 株元散布	チアホキサム	
		6	アフアーム乳剤	収穫7日前まで	3回以内	1,000倍～2,000倍(100～300g)	100～50ml	ハスモンヨトウ、シロイモジヨトウ	速	短	乳剤	散布	エマメチン安息香酸塩	
		28	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	2回以内	2,000倍～6,000倍(100～300g) 6000倍 16～32倍(0.8～1.6g)	50～17g 17g —	ハスモンヨトウ、ナカジロシタバ ヒルガオハモグリガ ハスモンヨトウ、ナカジロシタバ	速	長	顆粒水和剤	散布 無人航空機による散布	フルベンジアミド	

用途	劇毒	薬剤名	使用時期	10a当り使用量	使用回数	適用雑草	剤型	使用方法	成分名	備考
茎葉除草剤 (非選択性)		バスタ液剤	雑草生育期挿苗前又は畦間処理(収穫14日前まで)	200～500ml(100～150g)	2回以内	一年生雑草	液剤	雑草茎葉散布	グルホシネート	
	毒	ブリグロックスL	植付前 畦間処理、雑草生育期(但し、収穫30日前まで)	600～1,000ml(100～150g)	3回以内	一年生雑草	液剤	雑草茎葉散布	ジクワット・バラコート	